

ものづくり企業の展示会出展補助制度の
拡充についての要望

平成25年12月20日

福井商工会議所

我が国のものづくりを取り巻く環境は、政府の金融政策や経済政策の効果もあって、大企業を中心に回復の兆しが見えている。しかし、福井市内の中小製造業においては、原材料や燃料価格の上昇が先行するなど、未だ回復が実感できない状況にある。また、近隣アジア諸国との激しい価格競争などもあり、依然として厳しい経営環境が続いている。

こうした国内外の競争に打ち勝つため、市内の中小製造業では新製品や新技術の開発に積極的に取り組んでいるところである。しかしながら企業が有する優れた技術・製品を、まだまだうまく売り込めていないのが現状である。今後は、福井のものづくり企業の優れた製品や技術を、県外はもとより成長著しい海外市場などへ売り込んでいくことが必要である。

中小企業の販路開拓に最も有効な手段が展示会・商談会への出展・参加である。当所が行ったアンケート結果においても展示会出展の有効性が改めて確認される一方で、人・情報(ノウハウ)・カネの面においていくつかの問題点も浮き彫りとなってきている。

現在、福井市におかれては「新市場開拓補助金」など市内中小企業の受注機会の拡大、販路開拓支援のための制度が設けられているが、これらの制度をさらに拡充することでより使いやすく効果の高い制度として福井のものづくり企業の発展につながるよう、下記のとおり要望する。

記

1. 国内展示会出展への補助について

現在、市当局におかれては「新市場開拓補助金」の制度で中小企業の販路開拓を積極的に支援されているが、当制度のさらなる拡充をお願いしたい。

【募集回数の複数化と募集件数(募集枠)の拡大】

現行当制度は、年度当初より募集を開始し 15 件程度の予算枠に達し次第終了となっており、例年春先に枠が埋まってしまう。しかし、中小企業において年度当初から計画的に展示会出展を予定しているケースはまれであり、むしろ年度の途中で展示会の情報を入手し出展を企画するケースが多い。そのため、年度途中で出展を企画し、いざ当制度を利用しようにも利用できない場合が多い。したがって、年度途中で出展を計画しても対応できるよう、年度内複数回の募集をお願いしたい。

また募集件数においても、前述の通り全業種を通して 15 件程度の予算枠が上限であり、企業の販路開拓のニーズに比して非常に少ないのが現状である。したがって、当制度の募集件数の予算枠の拡充も合わせてお願いしたい。

○募集回数の複数化

(例) 現行：年 1 回 (4 月) 募集⇒拡充後：年 3 回 (4、6、10 月) 募集

○募集件数 (募集枠) の拡大

(例) 現行：年間 15 件程度⇒拡充後：年間 45 件程度 (15 件×3 回募集)

【補助限度額の拡充】

近年の展示会ブームにより、特に都市部の展示会などでは出展料が高騰している。また、展示会でより効果を高めるためには、案内チラシやカタログ、販促のグッズの配布をはじめ、展示会来場の DM 案内、専門家からのコンサルティングなど非常に費用がかさむ傾向にある。そこで現行 30 万円の補助限度額の拡充をお願いしたい。

○補助限度額の拡充

(例) 現行：30 万円⇒拡充後：50 万円

【補助回数の拡充】

展示会への出展は、一回だけで終わるのではなく継続していくことがより大きな効果を生み出す。したがって当制度もできるだけ多くの回数利用できることが理想であり、現行の2回までとなっている利用回数上限の緩和をお願いしたい。

○補助回数の拡充

(例) 現行：利用回数上限2回

⇒拡充後：利用回数上限の撤廃(ただし年度内利用1回まで)

2. 海外展示会出展・開催への補助について

現在、市当局におかれては海外、国内の展示会とも前述の「新市場開拓補助金」で補助を行っており同じ扱いとなっている。しかし、海外での展示会出展には渡航費用、外国語資料作成など、さまざまな面で国内展示会よりも経費がかさむ。そこで、海外の展示会は、国内とは別制度(別枠)を設けていただきたい。また、現行では、海外での自社主催の展示会への補助は別途「グローバル展開支援補助金」などでも支援を行っているが、この制度も統合すべきである。その上で国内展示会出展よりも一層充実した運用をお願いしたい。

○海外出展については国内展示会とは別制度(別枠)運用

○補助限度額

(例) 海外での展示会への出展・開催補助額 80万円

○募集件数

(例) 国内展示会とは別に15件(5件×3回募集)

平成25年12月20日

福井市長

東村 新一 様

福井商工会議所

会頭 川田 達男